

創造・参加・実践  
No.766

最新のJR西労組運動をチェックしよう!  
JR西労組HP (http://www.jrw-union.gr.jp)



「友だち追加」から「ID検索」または「QRコード」で登録!  
@dzc0159s



西日本旅客鉄道労働組合

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号  
西阪急ビル9階  
TEL 06-6375-9869(代)  
FAX 06-6373-4133

発行責任者 上村 良成  
編集責任者 尾崎 裕介

# 「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」 2025年4月25日開催

## 世界一安全な鉄道をめざし 「心理的安全性」を高めよう

2005年4月25日に発生した福知山線列車事故から20年が経過した。JR西労組はこの間、事故の反省と教訓を胸に刻み、二度と悲劇を繰り返さない決意で、安全確立を最優先課題に位置づけ、運動を展開してきた。しかし、2023年度には、2件の死亡労災事故により、2名の仲間の尊い命を失った。また、2024年度は、死亡労災事故は発生していないものの、感電2件、墜落7件、待避不良8件と死亡労災につながるかねない事象が続いている。引き続き、「当たり前」の事を、バカにせず、ちゃんとする(ABC運動)を浸透させ、真の安全確立に向けた取り組みを徹底しなければならない。また、事故後に入社した組合員は、全体の7割を超えており、事故を経験していない組合員が年々増加する中で、風化防止を目的に事故を心に刻み取り組みの重要性が高まっている。

JR西労組は、2025年4月25日(金)、TRPガーデンシティ大阪リバーサイドホテルにおいて、「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」を開催し、JR連合安全対策委員やJR西日本連合の加盟グループ労組の代表者を含めた、約700名が集まり、安全を最優先とし、さらなる安全性の向上に向けた取り組みを進めていくことを誓い合った。

開会に先立ち、出席者全員で黙祷を捧げ、主催者を代表して上村中央執行委員が挨拶を行った。

長が挨拶し、「世界一安全な鉄道をめざして、更なる安全性向上を誓い合おう」と述べた。(挨拶別掲)

そして、JR西日本安全研究所堀下智子室長代理より、「心理的安全性」と題して基調講演があり、職場で心理的安全性が高まることにより、安全行動に結びつくなど、心理的安全なチーム作りには、チーム全体で取り組むこととお互いに尊重することが重要であると学んだ。



集いには約270名が参集し、改めて安全を誓った



主催者を代表し挨拶を行う上村中央執行委員長



JR西日本安全研究所 堀下室長代理による基調講演

後藤総合車両所において、後藤工業労組の組合員が犠牲となる死亡労災事故から14年が経過した。

米子地方本部は、4月7日(月)、後藤総合車両所内に「安全考動室」において、中央本部、JR西日本連合の後藤工業労組、中国メンテック労組、山陰開発労組の代表者と共に追悼献花を行った。

中央本部からは、川原副執行委員長、石田原部長、尾崎部長、伊藤次長が参列し、献花ではお亡くなりになった仲間の御霊に哀悼の誠を捧げるとともに、仲間の死を無駄にしないよう事故の再発防止と風化防止を誓った。

JR西労組は、引き続き、安全確立を最優先課題として、「安全お守り手帳」を活用し取り組みを進めていくこととする。



現場にて追悼献花を行い、亡くなられた仲間の御霊に改めて安全をお誓いした

### 上村中央執行委員長主催者代表挨拶(要旨)

福知山線列車事故でお亡くなりになられた御霊に、改めてお詫びと哀悼の意を表します。事故から20年が経過しましたが、ご遺族様・ご被害者様にとって節目はなく、4月25日に安全を固く誓い合う意義を全組合員で確認したいと思っております。

JR西労組を代表して祈りの杜で開催された「福知山線列車事故追悼慰霊式」に出席し、世界一安全な鉄道会社をめざす決意を誓うとともに、風化させてはならない思いを強くしました。「当たり前」の事を「Bバカにせず Cちゃんとする」ABC運動の徹底を要請します。そして、自らの命を守り、全ての仲間の命を守ることが、「お客様の命」を守ることに繋がることを確認したいと思います。

2005年当時、中央執行委員であり、事故発生後に現地に向かったが、すでに規制線が張られており、中に入ることは出来ませんでした。車内に閉じ込められた方の悲鳴を忘れることはできません。事故以降に、駅員や乗務員への暴力行為もあり、JR西労組の組合員を守るべく、記者会見などの対応も行うとともに、再発防止に向けて「労使安全会議」を重ねて、「ヒューマンエラー非懲戒」制度を導入してきました。

安全確保の最後の砦は、人間であり、労働組合の果たす役割は大きく、自覚を持つ必要があるとともに、JR西労組の組合員が、ご遺族様やご被害者様と向き合っていることを忘れてはいけません。

事故の反省と教訓を胸に刻み、世界一安全な鉄道会社をめざして、更なる安全性向上の取り組み強化を全員で誓い合いたいと思っております。

### 後藤総合車両所構内死亡労災事故から14年 再発防止と風化防止を誓う

#### 再発防止と風化防止を誓う

2011年4月7日(木)10時10分頃、後藤総合車両所で列車の車輪を塗装する装置を点検していた作業員が装置と移動式天井クレーンの操縦席の間に挟まれて亡くなった。

#### 事故の概況と対策

修作業の競合が関係者間に知られていなかったことや、クレーンに近接する作業を行うときの危険防止の措置が周知されていなかったことである。

- (1) 工事施工前作業開始前に競合する作業の関係者周知を徹底
- (2) 当該天井クレーンや台車塗装装置の設備の改良見直し
- (3) クレーンに近接する作業における禁止事項や注意喚起に関する取り扱いの周知
- (4) リスクアセスメントの仕組みの改善



「鉄道安全考動計画2027」第1回検証アンケートの結果報告を行う中央本部中村業務部長

全考動計画2027「第1回検証アンケートの結果報告」を行った。

アンケートは、288分会から100%の回答があり、確認会話や危ないと感じた時に「迷わず列車作業を止める」という考えの浸透については、前回のアンケートを上回る96.2%で浸透している。



28日には、「祈りの杜」への献花(写真上)ならびに、「塚本〜尼崎間触車事故現場慰霊碑」への献花を行った

現場視点のチェック機能を最大限に発揮し、より強化することで、安全に対するPDCAを確実に実行し、会社へ積極的に問題提起を行い、真の安全確立に向けた取り組みを徹底していくこととする。

この結果となり、これまでの取り組みが評価される一方で、「当たり前」のことを、バカにせず、ちゃんとする(ABC運動)については、約50%の浸透度であり、更なる浸透に向けた取り組みが重要であることがうかがえる。

また、4月28日(月)、中央本部は「祈りの杜」福知山線列車事故現場ならびに「塚本〜尼崎間触車事故現場慰霊碑」への献花行動を推進していくことを集会アピールで誓い合い、集いを締めくくった。